

教職 e ポートフォリオにおける観点別自己評価に見る 教職志望学生の成長

The Growth of Student Teachers' Self Assessment Using Professional ePortfolio

谷塚 光典**, 東原 義訓*, 喜多 敏博**, 戸田 真志**, 鈴木 克明**

Mitsunori Yatsuka*, ** Yoshinori Higashibara*

Toshihiro Kita** Masashi Toda** Katsuaki Suzuki**

信州大学学術研究院教育学系* 熊本大学大学院教授システム学専攻**

Institute of Education, Shinshu University*

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University**

＜あらまし＞ 信州大学教育学部では、2010 年度入学生から新設・必修化された「教職実践演習」に対応するために、自己評価と相互評価の機能を実装した教職 e ポートフォリオを開発して運用している。本研究では、教職 e ポートフォリオに蓄積されたデータのうち、学生による観点別自己評価に着目して、学年による自己評価の変化の様相を明らかにする。分析の結果、徐々に上昇する観点、2～3 年次で上昇する観点がある一方で、2～3 年次で低下する観点もあることがわかった。

＜キーワード＞ e ポートフォリオ 履修カルテ 教員養成 教育実習 教師教育

1. はじめに

森本(2009)は、e ポートフォリオの定義を、「電子的な形式で扱われたすべてのポートフォリオ」(広義の定義)あるいは「ポートフォリオを作成するためのソフトウェアまたはポートフォリオをマネジメントするためのシステム」(狭義の定義)と定めている。このように電子的に蓄積された e ポートフォリオは、教育ビッグデータとして活用できると考えられるが、どんな意味のある有用なデータを e ポートフォリオとして蓄積・分析し、学習者にどのように提示すべきかなどの教育的観点からの議論は十分にされていないとされている(森本 2015)。

信州大学教育学部では、2010 年度入学生から新設・必修化された「教職実践演習」に対応するために、自己評価と相互評価の機能を実装した教職 e ポートフォリオを開発した(谷塚 2013)。

そこで本研究では、教職 e ポートフォリオに蓄積されたデータのうち、学生による観点別自己評価に着目して、学年による自己評価の変化の様相を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の対象と方法

本研究の対象は、2012 年度の信州大学教育学部入学生のうち、2014 年度に「教育実習 I」と「教育実習事前・事後指導」を受講し、2015 年度に「教職実践演習」を履修中の 252 名である。

これらの学生が教職 e ポートフォリオに記述した 5 段階の観点別自己評価を観点別・学年別に集計し、学年による変化の要因を検討する。

3. 自己評価の観点

自己評価の観点は、ディプロマ・ポリシーに対応させて設定された次の 12 観点である。各観点について自由記述することに加えて、5 段階評価も行うこととしている。

- ①教育にかかわる幅広い知識や教養
- ②教育に携わる専門家としての使命感・倫理観
- ③各教科の背景となる学問に関する知識
- ④各教科で扱う内容(学習指導要領)の知識と技能
- ⑤教科指導に関する知識
- ⑥教科に関する指導技術
- ⑦授業実践に関する専門的知識・技能
- ⑧幼児・児童・生徒理解に関する専門的知識
- ⑨学級経営に関する専門的知識・技能
- ⑩コミュニケーション能力や人間関係を調整する社会的スキル
- ⑪様々な立場の人や多様な専門家をコーディネートする社会的スキル
- ⑫理論と実践を往還する省察と改善の態度

4. 観点別自己評価の分析

図 1 は、観点別自己評価の学年による変化である。主として、次の 3 つのタイプに分かれる。

(A) 1～3年次にかけて徐々に上昇する観点

「②教育に携わる専門家としての使命感・倫理観」「④各教科で扱う内容(学習指導要領)の知識と技能」「⑨学級経営に関する専門的知識・技能」「⑩コミュニケーション能力や人間関係を調整する社会的スキル」は、1～2年次にかけて上昇している。2年次になり教職の専門科目を学ぶことによる効果であると思われる。一方、「⑪様々な立場の人や多様な専門家をコーディネートする社会的スキル」は徐々に上昇するものの、他の観点に比べると相対的に低めである。身に付ける機会を保证する必要がある。

(B) 2～3年次にかけて上昇する観点

「⑤教科指導に関する知識」「⑥教科に関する指導技術」「⑦授業実践に関する専門的知識・技能」「⑫理論と実践を往還する省察と改善の態度」は、1～2年次にかけても上昇するが、(A)の観点に比べて、1～2年次にかけての上昇幅が大きい。これは、3年次に履修する「教育実習Ⅰ」の効果が大きいと思われる。

(C) 2～3年次で低下する観点

一方で(B)とは逆に、「①教育にかかわる幅広い知識や教養」「③各教科の背景となる学問に関する知識」「⑧幼児・児童・生徒理解に関する専門的知識」の3観点は、2～3年次にかけて低下してしまっている。これは、「教育実習Ⅰ」開始前は自信を持っていたにもかかわらず、「教育実習Ⅰ」を履修してもっと学習する必要性を実感し始

めていることの表れであると思われる。

5. おわりに

本研究では、教職eポートフォリオに蓄積された観点別自己評価に着目して、学年による自己評価の変化の様相を明らかにした。

今後の課題としては、今回の分析対象は3年次末までであったので、入学当初および4年次末も含めた分析をする必要があろう。

付記

本研究の一部は、JSPS 科学研究費 基盤研究(B) 課題番号 25282050「自律的に学び続ける教師の核となる資質・能力の解明と質保証に関する研究」(研究代表者: 浦野弘)、及び基盤研究(C) 課題番号 25350325「教職キャリア志向向上と目指す教員像構築のための教職eポートフォリオの活用」(研究代表者: 谷塚光典)の助成を受けたものである。

参考文献

- 森本康彦 (2009) eポートフォリオ. 植野真臣, 長岡慶三編, e テスティング. 培風館, 東京. pp.237-265
- 森本康彦 (2015) eポートフォリオとしての教育ビッグデータとラーニングアナリティクス. コンピュータ&エデュケーション, 38 : 18-27
- 谷塚光典 (2013) 信州大学におけるeポートフォリオの運用と工夫—自己評価と相互評価による「目指す教師像」の構築を目指して—. SYNAPSE, Vol.23, pp.12-15

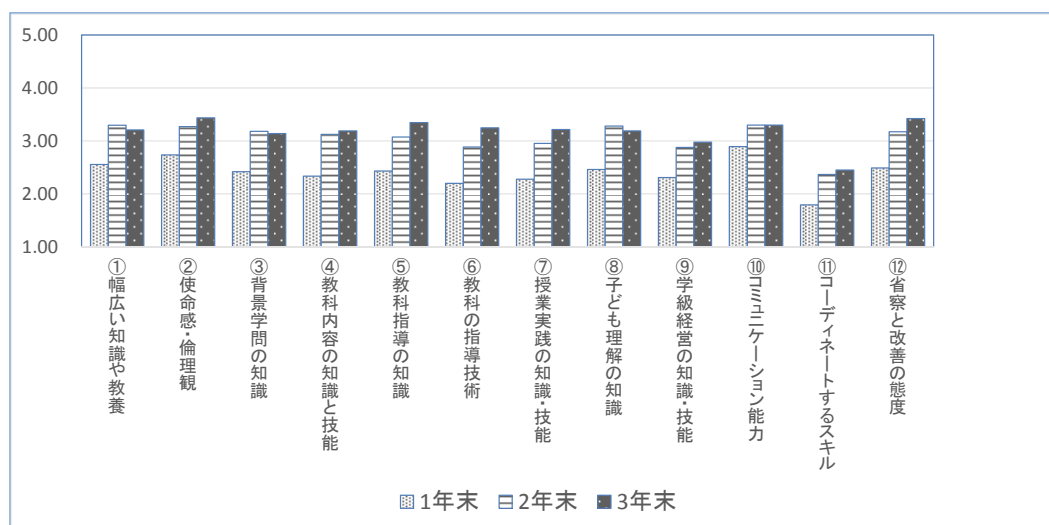


図1 観点別自己評価の学年による変化